

皆さん、おはようございます。この度は礼拝説教者としてお招きいただきありがとうございました。私の願いでこのZoomですることになったのですが、その分ご負担をおかけしたことを申し訳なく思っております。皆さんと食事もしたかったのにと、今(小野先生より)お聞きして思いましたが、必ず乗り越える時が来るでしょうから、またその時、ご一緒にお食事ができればと思います。

私はかつて第1期のフィリピンでの働きの最中で、非常に行き詰まっていたことがあります。ちょうどその頃、高橋先生がフィリピンに来られて、親身になって色々相談にのってくださったことがありました。その時、子どもたちが先生のことを大好きになっちゃったのです。次男なんかは先生が帰らないよう靴を隠したこともありました。そのぐらい、私だけじゃなくて家族にとっても、高橋先生は大切な存在になりました。それ以来、私は先生への感謝が胸にあります。その関係で一度、先生を訪ねて春日部教会にもお邪魔したのですが、もう20年も前だったのではないかと思います。今日、高橋先生は中央会堂におられるということですが、先生、改めて御礼申し上げます。過日は本当にありがとうございました。

## A 非常によかった世界

### 1 人の使命—神のかたち—

さて、今日は創世記一章にある「神のかたち」について学びましょう。

教会は2000年の歴史を通して、「神のかたち」について様々な神学的思索を深めてきました。しかし日本は、過去数十年の旧約聖書学の発展によって分かった大切な面に焦点を当てて、それをお分かちしたいと思うのです。これから申し上げることはですね、実はこの礼拝だけじゃなくて、午後の二つのセッションも含めて、この二つの書籍『神のご計画』と『救いの基礎改訂版』でも取り上げられていますので、今朝どうしても眠くて居眠りしたとしても、後でこのテキストを読んでいただければ大丈夫です。

「神のかたち」とは、一体どんな意味を持つのでしょうか。それを知るためには4000年以上前のメソポタミアに戻らなければなりません。当時のメソポタミアでは、多くの都市国家が繁栄していました。これは今のイラクにあたる地域です。中でもこのラガシュという都市は、この地方の中核的な都市でした。その土地はグデアという王様によって栄えていました。古代のメソポタミアでは面白い習慣がありました。この出土したグデア像を見てください。当時の王たちは、自分の像を作って領土を囲むように置いたので、そのことによりこの地域が誰の支配下にあるのかを人々に知らしめました。その像のことをアッカド語の南メソポタミア方言で「ツアルム」と言います。王たちは自分たちの像、王の像を作って国民に見せたのですが、興味深いことに、その王たちは自分のことを「神のかたち」「像」と称しました。それは自分こそが「目に見えない神の目に見えるかたち、代理人」で、「この国を治める王である」ということを意味したのです。自分の王権がですね、「神から来ている」ってことを伝えたかったのだと思うのです。自分を「神のかたち」と呼んだのは、王の権威を主張したかっただけではありませんでした。実は当時の王たちが残したウルナンム碑文やハムラビ碑文な

どの法律の碑文が発掘されているのですけども、それを読みますと、神の代理人である王の務めとして「正義・公正・弱者の救済」といった“社会正義”を国内に実現させることが挙げられています。古代から、政治の最大の役割は弱者を守る社会正義だったのです。つまり、神のかたちである王様の最大の務めは、社会正義を国内に実現することだったのです。

(画面切り替え)私は前面に上がってますでしょうか。大丈夫でしょうか。では続けて話したいと思うのですが、この「神のかたち」という言葉が聖書にも出てきます。新改訳 2017 でお読みします。創世記 1 章 27 節です。皆さんお手元にあるハンドアウトをご覧ください。

「神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。」この“かたち”と訳された言葉は、ヘブル語でツエルム、アッカド語のツアルムと同じです。ギリシャ語旧約聖書ではエイコン、現代でアイコンとかアイコンとか言われている言葉ですね。聖書では、当時王様だけを指した

“神のかたち”が全人類に使われています。創世記 1 章を初めて読んだ古代オリエントの人々は本当に驚いたと思います。“神のかたち”という言葉は「王様」だけを指しているのに、何と「人類全体」を指すのか、という驚きです。

聖書では、人類全てが全世界を治める王様なので、当然のように続く 28 節には次のように書かれています。

「神は彼らに仰せられた。生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ」。

つまり人間は神の代理人として、神の目に見える代理人として、愛と正義を持って世界を治めるために造られたのだ、全地の王様として造られたのだ、と言っているのです。それが聖書を開くと、創世記の冒頭から強いメッセージとして伝わってくるのです。人類が地上の王として造られた。これは実は聖書の最も大切な教えのひとつです。聖書を読む教えなのです。なぜなら人間が何のために造られたのかということをはっきり語っていますし、この点を正しく捉えないと、聖書が全体として伝えようとしていることを誤解してしまうからです。

## 2 もし罪を犯さなかったならば・・・

この点を少し考えてみましょう。なぜ私たちに目があり手があり指があるのでしょうか。なぜ私達に知性や芸術性が与えられているのでしょうか。私たちは日ごとの生活の中で家事や育児に励みます。農業や工業、ハイテク情報の産業の分野で働きます。音楽や文学を楽しみ、生み出します。その他ありとあらゆる地上の営みを通して私たちは何をしようとしているのでしょうか。

その質問に対する聖書の答えは、「愛と正義である神の代理人、神に立てられた地上の王様としてこの世界を正しく治めるためなのだ」となるのです。

もしアダムとエバが神に逆らうことなく、その子孫がみんな神に従っていたならばどうなっていたことでしょうか。想像して頂きたいのです。この地上は愛と正義に満ちていたことでしょうか。地が産物を豊かに産み出し、科学技術は正しく用いられ、地上は美しい芸術に満ちていたことでしょうか。全ての人間が造り主である神

を賛美しながら歩んでいたことだと思います。神様はそのような地上のあり様を創世記 1 章 31 節にあるように、「非常に良かった」と仰いました。神様はそのために人間と他の被造物をお造になったのです。「世界は非常に良かった」。これは強調しすぎることはない大切なことなのです。

## B 罪:人間が暴君に

ところがアダムとエバが罪を犯してすべてが変わっていきました。偶像礼拝がはじまります。人と人之间には憎しみが生まれ、殺人、戦争、貧富の差が広がります。環境を、神様が造られた自然を、ただ自分の益にだけ利用するようになって、環境破壊が入ってきます。正しい王さまだった人間が暴君となり、地上に悪がはびこるようになったのです。

では神様はこのまま世界が崩壊していくのを放って置かれるのでしょうか。

皆さんが全地を造られた神様だったらどうでしょう。神様は一種類一種類の花を、また鳥を、心をこめて精巧に、かつ美しく作られました。人間一人一人はそれ以上です。人間が神の計画を歪めてしまったからといって、神様はご自分の本来の計画を諦めるのでしょうか。もし神様が諦めるとするならば、全能の神様よりも人間の罪の力の方が強いということにならないのでしょうか。全能の神は非常に良い世界を作り、養い育て完成する、というご自分の計画を捨て去るお方ではありません。自分に背いた人と世界を捨て去って、消し去るお方ではないのです。

神様は世界を、本来の「非常に良かった世界」に回復するために行動を開始しました。最初にアブラハムを選び、次にその子孫を整え、最後にはご自分の御子イエス・キリストを地上に送っていただきました。この点は分かりやすく『神のご計画』に書いてありますので、後でゆっくりお読みいただければと思います。

## C 救い

### 1. 神のかたちであるイエス・キリスト

本日はこの神のかたちに焦点を当てて分かりやすく話していきます。

この「神のかたち」という言葉は、そっくりそのまま新約聖書に出てきます。ハンドアウトを見てください。第 2 コリント 4 章 4 節では、イエス・キリストが「神のかたち」といわれています。「神のかたちであるキリスト」。またコロサイ書 1 章 15 節では「御子は目に見えない神のかたちであり」と書かれています。つまりイエス・キリストは、父なる神様の目に見える代理人、地上を治める王だということです。イエス様こそ罪のない真の人間、アダムにできなかったことを成し遂げてくださる方であるということがわかります。

### 2. 神のかたちが回復されるキリスト者

しかしそれだけではありません。ローマ人への手紙 8 章 29 節では次のように書かれています。これもハンドアウトにあります。「神は、あらかじめ知っている人たちを、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたのです」。もう一箇所は第 2 コリント 3 章 18 節、「私たちはみな、…栄光から栄光へと、主と同じかたちに変えられていきます。これは主の霊の働きによるのです」。この箇所は何を伝えているのでしょうか。ハンドアウトにまとめましたのでそれをお読みします。

第一は、人は罪のゆえに神のかたちが歪み、暴君のように地上で振る舞ってきた。

第二、しかし神はその罪をキリストの十字架のゆえに赦しただけではなく、十字架によって人を罪の奴隷から解放した。

第三、そのため信仰者は聖霊の助けにより本来の正しい王様、神のかたちとして回復しつつある。

第四、その結果、本来の良い世界、これは神の国と新約で言っていますけども、それが全地に広がっていくのだということです。そして再臨の時にその姿が完成します。

### 3 完成する人間と世界

最後になりますが、黙示録 22 章 5 節です。「彼らは世々限りなく王として治める」。この時代の終わりにては万物が回復し、神と小羊なるイエス・キリストが天から地上に降りてきます。その時にクリスチャンは新しくされた地上に復活します。そしてキリストとともに地上を王として治めることになります。ここにおいて天地創造の目的が完全に達成されることになります。創世記から黙示録まで聖書全体が語る救いのみわざは全宇宙的で実に壮大です。しかも私たちクリスチャンは、その壮大な救いの御業にあずかせていただいているのです。

最後にまとめてみましょう。イエス・キリストによる救いは私たちを本来の人間の姿、本来の神のかたちに回復させます。それによって全世界が本来の非常に良かったものに回復していくのです。そのためにイエス様は地上に人として来てくださいました。そのためにイエス様が十字架にかかって、わたしたちの罪を赦しただけでなく、私たちを罪の奴隷から解放してくださいました。その後よみがえったイエス様は聖霊によって私たちを変えてくださっています。

私たちはこの礼拝の場からそれぞれの生活の場に遣わされていきます。その場で私たちはイエス様に頼って愛と正義を求めていきましょう。祈りつつ、知性と芸術性を発揮して歩いていきましょう。その時、その場は少しずつ本来の非常に良かった世界の姿に回復されていきます。「神の国」です。それは家庭からはじまります。地域社会に広がります。日本国全体に広がります。グローバル経済と国際政治にも及んでいきます。今週もそのような歩みを目指していきたいと思うのです。

### 祈り

それではお祈りします。皆さん目を閉じて頭を垂れてください。

父なる神様。私たちは神のかたち、全地の王として作られました。この世界を本当に正しく美しく治めてあなたに栄光を帰すために作られました。しかし私たちの罪のゆえに私たちが暴君となってこの世界をひどく歪めてしまいました。その罪をどうぞおゆるしてください。イエス様がその罪を赦してくださったことを感謝いたします。しかもイエス様が十字架でわたしたちの罪を赦しただけではなくて、罪から解放してくださいました。聖霊によって私たちの神のかたちを回復してくださっていますから、ありがとうございます。

今週も家庭に職場に地域に戻っていきます。どうぞ聖霊によって私たちを整えて、この世界を正しく治めていくような歩みをそれぞれの場でさせてください。私たちの目を世界に向けてください。環境にも向けてくださって、あなたが心を込めて造ってくださったこの世界全体、人間の罪の故に今、悲鳴をあげています。環境が壊れています。そのような世界にも目を向けて、神の造られたこの世界のためにも環境のためにも行動を起こす者ともしてください。イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。